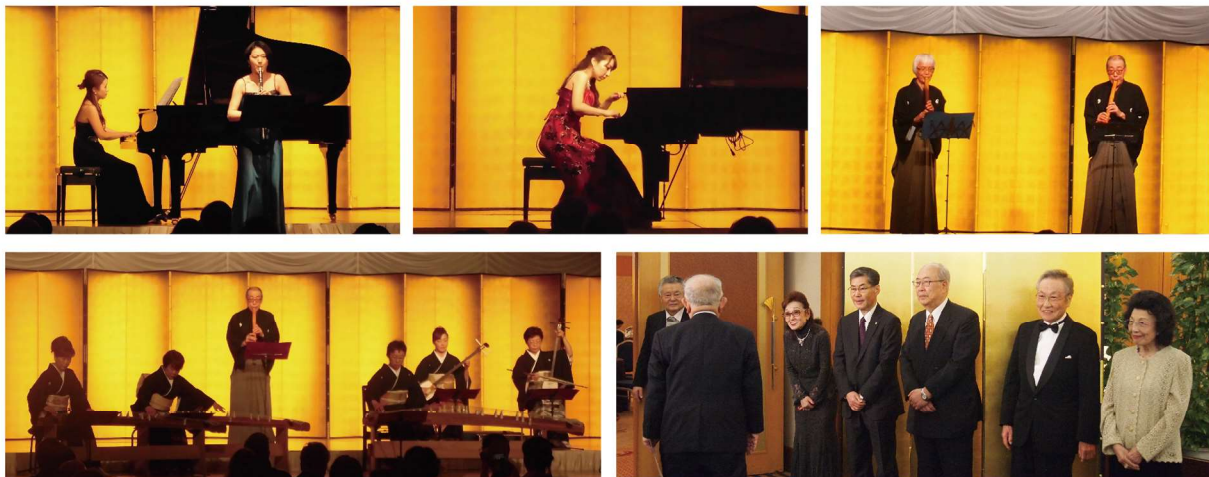


HIMES ニュース

Hokkaido International Music Exchange Society News Letter

■第31回ハイメス・チャリティ・ニューイヤー・ディナーコンサート



■第31回ハイメスコンクール<声楽部門>



「チャリティ・ニューイヤー・ディナーコンサート」、「ハイメスコンクール」について

雨貝尚子(ハイメス理事・ハイメスコンクール委員会委員長)



今年「新たな飛躍 和と洋のひびき」として藤田理事長挨拶に続いて秋元市長、高橋道知事の祝辞祝杯で幕が開きました。司会も一新。新年を祝して尺八の優雅な響きで静謐な時間が流れます。この伝統芸術は新年に不可欠です。続いてなんとまた贅沢な、若手、ハイメスコンクールで入賞した新進気鋭のピアノ・ソロ、そしてクラリネット演奏で温和で華麗な空間が満たされました。例年とはいえ、一段と工夫をこらした器楽の演奏でした。器楽演奏はステージもしつらえられていましたから楽しめました。ピアノとクラリネットですからどちらかという「静」でしょう。やはり晴れやかなときは「陽」の声楽演奏も加えて盛り上げたいと、同じ食卓を囲んだ方々の感想です。食事の各テーブルはすっかり常連、一年のご無沙汰のご挨拶だけではなく話がはずみます。ずいぶん打ち解けた雰囲気になっています。どのような団体でも「人とひと」です。「話す」と日頃の苦勞をちょっと「離す」ことができるようです。

すでに31回! 経済の低迷のなかでも藤田理事長の誠実な勧誘でご支援の法人会員。個人会員が継続、進展し、ますますよきひとたちの連携が出来上がって青年芸術家たちに希望とチャンスを与えることがなされています。

締めは、初代理事長河邨文一郎氏の「虹と雪のパラード」! 全員合唱、これはわたしたどもをリードするリート(歌)、大切にしましょう。

さて、この青年芸術家たちに希望とチャンスを与える「ハイメスコンクール」は今年31回を迎え、3月22日(金)に北広島市芸術文化ホールで、声楽部門の審査が行われました。応募数は28年度の声楽部門18名を少しだけ下回りましたが、テノール1名、バリトン2名、ソプラノ8名、メゾソプラノ3名の計14名でした。いずれの応募者も、非常に活気にあふれ、曲の意味を理解し、感情移入も豊かにのびのびと歌唱していました。第一位はソプラノの月下愛実さんでL.ドリーブ作曲の歌劇『ラクメ』より“若いインドの娘はどこへ行く(鐘の歌)”を歌われました。表彰式の全体講評にて、審査委員長の堀内康雄氏により、「若い人々は優勝のみねらうのではなく、ポジティブに参加することに意味があり、この機会を、自らの学習の未来につなぐ第一歩とすることが大切だ」との激励のお言葉がありました。応募者全員、夢と希望をもって研鑽を続けてほしいものです。

コンサート委員会では2018年12月11日(火)札幌市時計台ホールにおいて「第18回ハイメス・プラザ時計台の鐘コンサート」を開催しました。声楽、フルート、クラリネット、ピアノ・・・7名のアーティスト会員が出演し、満席の時計台ホールがバラエティ豊かな演奏とお客様の拍手で包み込まれました。2019年3月6日(水)ザ・ルーテルホールにて開催されました「ザ・ルーテルホール・ハイメスコンサートシリーズ」も50回目を迎え、「音楽の宝石箱」をテーマとし、アーティスト自身が得意とするレパートリーや挑戦してみたい曲などで構成されました。声楽、フルート、ピアノの9名が出演し、それぞれの華やかな演奏は会場を魅了しご来場のお客様からもご好評いただきました。

第18回
ハイメス・プラザ
時計台の鐘コンサート



第50回
ザ・ルーテルホール・
ハイメスコンサート
～音楽の宝石箱～



第1位 月下 愛実(つきした まなみ)さん ソプラノ(写真左)

第2位 小林 奏(こばやし かな)さん メゾ・ソプラノ(写真右)

第1位の月下さんは武蔵野音楽大学大学院音楽研究科研究科ヴィルトゥオーゾコースを修了し、今後留学を目指してさらなる研鑽を積まれています。

第2位の小林さんは愛知県立芸術大学大学院を修了後、現在はドイツで活動中です。

入賞者お二人のコメント、審査委員長 堀内康雄先生による全体講評はホームページに掲載されていますのでぜひご覧ください。

●第19回ハイメス・プラザ 時計台の鐘コンサート

(公財)札幌国際プラザとの共催事業です。ハイメスに新しく入会したアーティストを中心としたバラエティ豊かなコンサートです。コンサートの終わりには出演アーティストと会場の皆さんと一緒に『時計台の鐘』を歌います。

【日時】2019年10月23日(水) 午後7時開演
【会場】札幌市時計台ホール
【出演】管弦楽器、声楽などのアーティスト会員

●第32回ハイメス・ニューイヤーコンサート

新春、ハイメスがお送りする華やかなニューイヤーコンサートです。ハイメスコンクール入賞者による演奏、邦楽や声楽などのアンサンブルで新年の門出を祝います。このコンサートの益金はハイメスコンクール入賞者の海外研修を支援するための助成金となります。

【日時】2020年1月19日(日)
【会場】札幌パークホテル3Fパークホール

●第51回ザ・ルーテルホール・ハイメスコンサート
「ベートーヴェンの生きた時代」

ザ・ルーテルホール・ハイメスコンサートは毎回テーマを決めています。今回はベートーヴェン生誕250年を記念して、テーマを「ベートーヴェンの生きた時代」としました。ザ・ルーテルホールとの共催事業のコンサートシリーズです。

【日時】2020年3月4日(水) 開催 午後7時開演
【会場】ザ・ルーテルホール

●第32回ハイメスコンクール<ピアノ部門>

若手音楽家を育てるというハイメスの趣旨のもと、設立以来、道内にゆかりのある若手音楽家の海外研修を支援するため、声楽・ピアノ・管弦打楽器部門の3部門を毎年順次開催しています。過去の入賞者の中からは国内外で活躍する多くのアーティストが育っています。

【日時】2020年3月19日(木) 開催 開始時間未定
【会場】北広島市芸術文化ホール(花ホール)
※参加者募集開始は9月頃を予定しています。

第7回ハイメスオーケストラ開催のお知らせ

研修事業委員会

第7回目となるハイメスオーケストラは、アーティスト会員から選ばれた2名のピアノソリストとオーケストラの協演をはじめ、ドヴォルザークの交響曲第8番など華やかなプログラムを演奏します。指揮はヴァイオリニストであり指揮者としても活躍中のハイメスオーケストラ初登場となる澤 和樹氏です。

【日時】2019年8月14日(水) 午後5時開演 【会場】ちえりあホール

【指揮】澤 和樹



1979年、東京藝術大学大学院修了。「安宅賞」受賞。ロン・ティボー、ヴェニエアフスキ、ミュンヘンなどの国際コンクールに入賞。イザイ・メダル、ボルドー音楽祭金メダル受賞などヴァイオリニストとして国際的に活躍。'96より指揮活動を開始。2003年、'04年には響ホール室内合奏団、'05年には東京弦楽合奏団を率いて英国各地で演奏し絶賛される。九州交響楽団、東京フィル、日本フィル、札幌交響楽団、紀尾井ホール室内管弦楽団等にも客演し、好評を博す。2004年、和歌山県文化賞受賞。東京藝術大学音楽学部教授、音楽学部長を経て2016年より東京藝術大学学長。

【プログラム】

ショパン/夜想曲第4番 へ長調 Op.15-1 (グラスノフ編曲)
リスト/ピアノ協奏曲第2番 イ長調 S.125 R.456 Pf.小山雪絵
ラヴェル/ピアノ協奏曲 ト長調 Pf.三上絵里香
ドヴォルザーク/交響曲第8番 ト長調 Op.88

【コンサートマスター】

《前半》井上澄子(札幌交響楽団)
《後半》大平まゆみ(札幌交響楽団コンサートマスター)



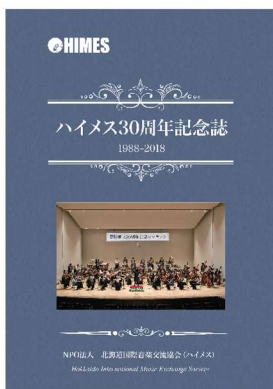
小山雪絵
(ピアノ)



三上絵里香
(ピアノ)

【主催】NPO法人北海道国際音楽交流協会(ハイメス) 【共催】(公財)札幌市生涯学習振興財団 (公財)札幌交響楽団
【協賛】ホクレン農業協同組合連合会 北海道新聞社 北海道銀行 【後援】札幌市 札幌市教育委員会

ハイメス30周年記念誌 まもなく完成!



<記念誌表紙>

「ハイメス30周年記念誌」が出来上がります。10年前に作成された「20周年記念誌」から引き継がれた、その後の10年間にスポットを充てた内容となっております。この2冊を手にして頂ければ、これまでのハイメスの30年間の歴史をご覧頂けるのではないかと思います。

足掛け3年間の製作期間をとおして、紐解いたハイメスの歴史から今日のハイメスの礎を再認識し、今後の在り方に想いを馳せる、そのような時間でもありました。是非皆様にゆっくりご覧頂きたいです。

ハイメス30周年記念誌編集委員

長沼修 立花雅和 駒ヶ嶺ゆかり 森吉亮江 立花麻美

インフォメーション

2019年度年会費納入のお願い

本年度の年会費納入につきましてご案内をお届けしております。当会の運営・活動へのご理解、ご支援のほど何卒お願い申し上げます。

会費：一般アーティスト会員は5,000円、学生アーティスト会員は3,000円、企業・団体、個人会員は一口10,000円からです。

振込先:

北洋銀行 本店 普通 0780005
北海道銀行 本店 普通 2735679
ゆうちょ銀行 二七九支店 当座 0092801
口座名:NPO 法人ハイメス

※北海道銀行のATM機でお振込みいただく場合の口座名は、「特定非営利活動法人 北海道国際音楽交流協会 理事長 藤田久雄」となります。

編集後記

ハイメス30周年記念誌の製作を通して、改めてハイメスが積み上げてきた歴史を再確認することができました。ハイメスが30年目という大きな節目を経て、時代もまさに新たなスタートを切ろうとしています。

平成という時代は、インターネットやスマートフォンが普及したことで、娯楽のみならず、人の生き方すらも多様化しました。それは音楽家にとっても例外ではありません。

私の周囲でフリーランスとして活動する音楽家たちが、一般に浸透してきたのも、この平成の時代でした。演奏だけでなく、自ら作曲やアレンジを行う者も増えています。音楽家としてのあり方の多様化、様々なテクノロジーの進化などによって、ジャンルに囚われることなく、自らを表現しやすくなっていることを実感しています。

一体令和の時代には、どんな音楽家たちが、どんな生き方をしていくのだろうと、戦々恐々としながらも、ワクワクしている自分がいます。

(広報委員 立花雅和)



広報誌のバックナンバーは公式HPから!

ハイメス

検索

<http://www.himes.jp>

■企画・制作 ハイメス広報委員会

長沼修(ハイメス広報委員長) 立花雅和 駒ヶ嶺ゆかり 森吉亮江

NPO法人北海道国際音楽交流協会(ハイメス)

〒060-0001

札幌市中央区北1条西3丁目札幌MNビル6階SIS内

☎ 011-232-7592 / Fax.011-232-7793

E-mail : office@himes.jp